



中学校(職場体験)

職場体験とは

文部科学省「中学校 職場体験ガイド」では、「生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動」と規定されています。

職場体験が求められる背景

最近、中学生段階での進路意識の未成熟や勤労観、職業観の未発達が大きな課題となっています。

そのため、生徒が実際的な知識や技術・技能に触れることを通じて、自分たちが学ぶことの意義をしっかりと理解し、自分自身が主体的に進路を決定しようとする意欲や意志を身につけさせる必要があります。中学校の「職場体験」はそれらを培う教育活動として、重要な意味を持っています。

中学校での「職場体験」は、小学校の「職場見学」から、高等学校での「インターンシップ」へと職場体験学習を系統的につなげる意味において、重要な役割を持っています。「職場体験」は、各学校において、事業所や地域との深い連携・協力関係のもとに、幅広く導入していくことが強く望まれています。

職場体験の現状

国立教育政策研究所によると、平成17年度の「職場体験」実施率は91.9%に達しています。きっかけとしては、現行の学習指導要領への移行を機に導入したケースが多く、実施学年別では、全体の8割が2年生となっています。

実施後のアンケート結果では、約95%の中学校が「生徒に職業観・勤労観が芽生え、働くことへの関心が高まった」と答え、キャリア教育の一環として「職場体験」は極めて有効な手段として認知されているようです。

中学教諭の声

「生徒にぜひ学ばせたいこと」

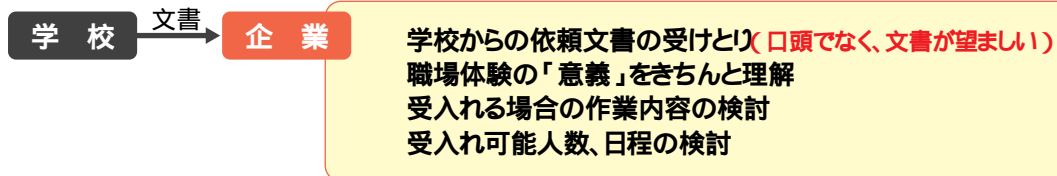
中学生には、職場体験を通じ仕事に打ち込む人間の美しさ、そして付随する「満足感・使命感・達成感」と、逆の「葛藤・悩み」などを体感して欲しいと思っています。机上の学習では体得できない、バーチャルでない体験を持って、働く場の現実を、直接的に、体感的に認知してくれることを望んでいます。また、職場体験で、大人・市民・社会人・職業人・専門職の方々の後姿をきちんとみて、それを自分たちの親の「姿」につなげてほしいです。これらを通じて、彼ら自身が、主観的(自己中心的)な捉え方から客観的な見方や考え方に成長・発達することの契機になることを期待しています。

実施の流れ

地域によって学校側の対応が多少異なる場合があります。

通例、中学校から各企業に職場体験の依頼があります。

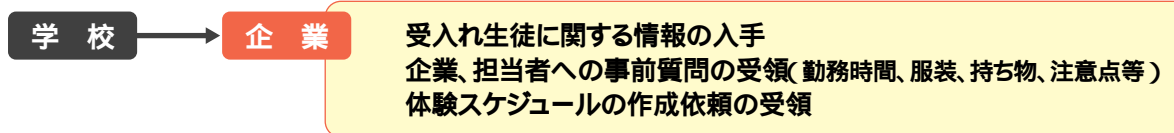
(地域の教育協議会や経済団体等から企業に依頼する場合があります)



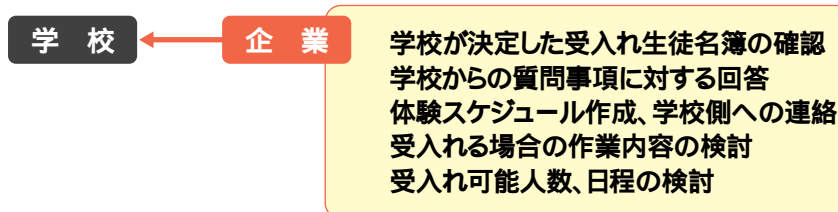
企業から、中学校に受入れ承諾の連絡と日程調整をします また、一般的には中学校から担当教師が受入れ企業を訪問します。



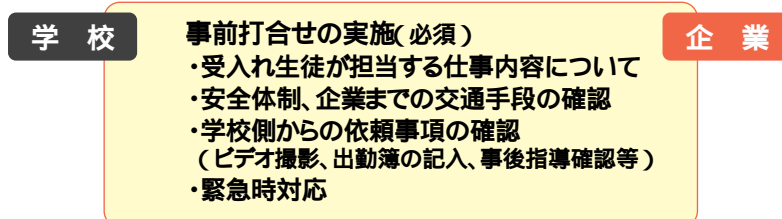
中学校から、詳細な情報が送られてきます。



中学校からの情報の確認と依頼事項の回答を行って下さい。



事前打合せを実施し、中学校と企業との間できちんと意識合わせをして下さい。打合せは受入事業所で行うのが一般的です。



中学校は受入れ生徒に対し、事前指導を実施します。
特に安全面や社会性・マナーを重点的に行います。

(企業からも、事前指導の実施を依頼してください。)

学 校

服装、態度、マナー、話し方指導
自己紹介等の事前指導
事業所の下見指導
安全指導

企業も受入れ準備を行い、万全の体制を整える必要があります。

受入れ生徒が入っていけない場所、守秘義務の高い場所の設定
コンピューター等の重要機器の管理
社内受け入れ体制の確定と社内での周知 など

《生徒の事前訪問》受入れ生徒が事前に企業を訪問する場合があります。
その場合は、初めての接点の場ですので、生徒の意識が高まるような
激励などを行って下さい。

生 徒

「挨拶」「励まし」「体験当日の打合せ」

企 業

職場体験 受入れ

職場体験終了後、学校から事後報告会への参加、アンケート記入、受入れ
生徒に対する評価等の依頼があります。
今後、双方にとって効果的な職場体験学習を実施していくためにも
これらの依頼への協力をお願いします。
また、学校・生徒から感想文や礼状等が送られてくる場合があります。
ぜひ社内で回覧するなど、会社全体で情報を共有して下さい。

中学校で、特に留意するポイント

スケジュール作成の留意点

- ▶ **受入れの目的を、関係する従業員全員が理解して下さい。**
従業員全員が「一つの心」でないと、実施内容が不明確なものになる可能性があります。そのため、その内容と意義を事前に従業員に把握させて下さい。
- ▶ **受入れ生徒の能力・体力を考えて、作業内容を決めて下さい。**
企業(事業所)の業種や職種に応じて、どのような作業をさせるのかを検討する際は、受入れ生徒に対して、どの程度の作業をさせることが可能かを把握しておく必要があります。そのため、事前に先生(場合によっては受入れ生徒)と打合せしておくほうが良いでしょう。
- ▶ **受入れ生徒に関する情報を、事前に確認して下さい。**
より実のある職場体験にするため、事前に学校側から生徒に関する情報を確認したり、生徒から将来の進路希望を聞いたりして、作業内容を定める時の参考にするもお勧めします。
- ▶ **できるだけ多くの仕事を幅広く体験させて下さい。**
業種の内容にかかわらず、受入れ生徒には、企業(事業所)組織や経営に関する理念を少しでも学ばせるために、できるだけ多くの仕事を、幅広く体験させて下さい。
- ▶ **危険な作業の体験は絶対に避けて下さい。**
あくまでも、就業体験なので、軽作業(補助作業)の体験に限定して下さい。危険な作業体験は絶対に避けて下さい。

職場体験で生徒に接する際のポイント

受入れ側の 4つのポイント

良いときはほめ、
悪いときは
叱って下さい

社会的マナーや
礼儀の大切さを
教えて下さい

職業や働くことの
大切さを話して
下さい

自分の生き方や
学習の大切さ等
について話して
下さい

上記のポイント以外にも、気をつけなければいけない項目として、

- ▶ **偏った先入観を持たない**
受入れ生徒に対しては、「偏った先入観」を持たないようにしてください。また、彼らは、いまだ大人社会との関わりや実体験が希薄であることに留意するようにして下さい。
- ▶ **中学生はまだ『未熟』であることを理解する**
職場体験中、戸惑ったり、挨拶や言葉遣いを身に付けていなかったり、私語をすることがあります。これらは、決して人間としての本質の問題ではありません。彼らはまだ未熟なだけなのです。本当の彼らの姿は「素直」で「まじめ」なことを理解して下さい。
- ▶ **受入生徒は「緊張」していることを理解する**
無愛想であったり、大きな声で受け答えできないなどの問題があっても、緊張から来るものが殆どです。新しい環境に入っていく場合は、大人でも緊張するものです。思いやりのある一言が大事になります。ちょっとしたことで気分がほぐれると本来の明るさが戻ります。

このような点を理解し、大人としての寛容な心と社会人としての厳しい目の両方から彼らにしっかりと指導することも重要です。

具体的事例

大阪府内の中学校での職場体験の実施日数は3日間程度が殆どです。但し、ここでは、文部科学省のガイドに従い、5日間の具体的な実施事例を示します。2～3日間で開催する場合、2～4日目を短縮して下さい。

時刻	スーパーマーケット	部品製造工場	幼稚園
1日目	オリエンテーション (安全確認等) 店舗内案内 挨拶、接客マナーの講習 清掃 在庫整理 1日の振り返り(反省会等)	オリエンテーション (安全確認等) 社内案内 製品、製造工程の説明 挨拶、態度、返事の指導 商品取り扱い、留意点指導 1日の振り返り(反省会等)	オリエンテーション (幼児への対応の仕方) 園内案内 担当教諭の紹介 受け持ち学級の観察 遊び(粘土)の指導補助 1日の振り返り(反省会等)
2日目	安全確認 清掃 在庫整理 商品バック詰め作業 ラベル貼り作業 1日の振り返り(反省会等)	安全確認 清掃 製品の箱詰め作業 出荷準備の手伝い 1日の振り返り(反省会等)	打合せ、幼児の観察 絵本の読み聞かせ体験 昼食指導 遊び(お絵かき)の指導補助 清掃、教材準備 1日の振り返り(反省会等)
3日目	安全確認 清掃 商品バック詰め作業 レジのアシスタント 接客 1日の振り返り(反省会等)	安全確認 清掃 製品の箱詰め作業 製造工程作業 1日の振り返り(反省会等)	打合せ、幼児の観察 歌、ゲームの指導補助 昼食指導 清掃、教材準備 ミーティング参加 1日の振り返り(反省会等)
4日目	安全確認、清掃 商品チェック作業 接客 レジのアシスタント たな卸し作業 1日の振り返り(反省会等)	安全確認 清掃 製造工程作業 1日の振り返り(反省会等)	打合せ、幼児の観察 製作活動の指導補助 昼食指導 行事(お誕生日会等)補助 清掃、教材準備 1日の振り返り(反省会等)
5日目	安全確認、清掃 品出し作業 レジのアシスタント 接客 5日間の振り返り (感想・挨拶等)	安全確認 清掃 製造工程作業 製品チェック作業 5日間の振り返り (感想・挨拶等)	打合せ、幼児の観察 絵本読み聞かせ体験 遊び(積み木)指導補助 昼食指導 お別れ会 5日間の振り返り